

牧草と園藝



草資源 増成改良 利用増進 に関する意見

兼 松 満 造

草の問題が今日大きく取り上げられるに至りましたことは、過去二十年の経験から顧みまして非常にうれしいのでございますが、残念なことには国民全般のこれに対する認識はきわめて低いのであります。大陸を彷徨した経験のある民族は家畜とともに歩き、定住するまでその家畜によつて食をつないでいたのでありますから、古来家畜との関係も深く家畜の食糧である草に対する認識と観念が先天的に深かつたのであります。南の端から北の端まで水田を中心とする稲作農業を主体とした日本民族は草を作物と考えるような知識は持つておりません。農業技術界をはじめ国民全般が草に対する認識を高めることがまず必要であります。

一 草作による地力の培養

狭い国土に多数の国民が生きて行かねばならない日本の現状としては単位生産量の多い水稲はわれわれにとつて極めて貴重な作物であることは間違いないのであります。が、今日西園暖地の水田の地方が著しく減退して年々稲が出来なくなつて来ておるのであります。畑地においても有機物、微量要素等の欠乏は甚だしいものがあります。一方従来日本の約六百万町歩の田畑の地力

維持のためには広大な平地雑木林等の低位利用地をもち、略奪的に採草を行ひまたは落葉をさらつて来たのであります。今や食糧増産の道をかかると新開地に求めなければならぬ今日、かかることはすでに許されない事態に立ち至つております。

農産物の生産費を低減する根本は地方の培養だと思つてあります。もろもろの土地改良事業の中に、堆肥の給源の問題、特に草の問題が大きくとりあげられなければならない所以は突にここにあると思つてあります。

二 草は最も安価な蛋白の給源である。

われわれ日本が鉱工業を盛んにして輸出振興をして強い国にならなければいかぬといふことはわかり切つたことであるが、国民六衆の体位を向上し、また頭腦をよくするといふことについては、いつまでも食糧ラムでよいわけはないので、特に不足してゐる蛋白その他の栄養素は、われわれ民族の将来の繁栄のためにも、国民体位向上のためにも根本的に要請されると思つてあります。魚の資源から蛋白をとることではとうてい日本人の将来の要請にこたえ得られない。これがため畜産を盛んにしてくれないければ困るという平塚水産会長のお話も

承わつておりますが、草は最も安価な蛋白の給源であります。このことは実際草を作つて見て数字的にはつきり申し上げられる点でございます。栄養分の多い草を生産してカローリーの多い豊富な乳、肉を生産すべきであります。

一 土地を生産性の高いものにする

私のおります牧場は、那須火山の山麓で、火山灰におおわれた日本でも典型的な低位生産土壤であります。ところが、これに草を作りまして家畜を飼つて参りますと、非常に生産性の高い土に變つて参ります。私が来て以来七年を経過いたしました。場内の畑の生産力は栄養分の生産にして約三倍に向上したのであります。

この考え方で附近の低位生産土壤の開拓者に實際指導したのであります。

初、山野で集めた刈草、落葉等の堆肥の外金肥反当り二千円くらいを投じて麦をまいたが、ほとんど種子もとれないような土地で、これを何とかせねばならぬといふので、乳牛を導入した、乳牛を飼うには結草を作らねばなりません。幸いその人は熱心な農家で、従来の穀類農業を一てきしてほとんど草をまいた。もちろん牧草にも相当肥料をやつたのであります。その後草を転換して麦を作つたところ稜麦が反当十二俵もとれる程になつたのであります。これは特例ではございません。合理的に牧草を栽培して地力を増進した例は沢山あるのであります。低位生産の水田についてやつた例で、これは火山灰におおわれた土地ですが、豊作の年で六俵が最高であつた水田五

反歩を畑に転換して、二年間牧草を作つて本年水田に輪換したのであります。十二三俵くらいはとれるだろうという出来を見せたのであります。さらに日本の残された原野あるいは山麓の低位生産地帯、森林伐採地等適切な管理技術を適用いたしますれば低位生産土壤を数段高いものにする確信をもつものであります。

二 家畜の健康がいちじるしく増進する

草作により土地がよくなるのみならず、よい草によつて飼育される家畜は健康状態がいちじるしく増進せられ、牛馬の繁殖障害、その他家畜の栄養関係に基づく病気がほとんど根絶するのであります。これも私たちの牧場でそのことをつきり見ることが出来るのであります。

草作農業進展のためにはまず人を作れ

由来穀類農業一点張りであります日本の農業界はあらゆる階層を通じて草に対する認識がない。従ひまして草資源研究機関も極めてみじめであり、牧草についての基本的な研究も少ない。さらに第一線で實際牧野改良の指導の出来る技術者が幾人おるかということも考えさせられる問題であります。さらに草の栽培により農家経営をどのようにして行くか、日本の農業の中に大きく一日も早く浸透させるためにもまず人を作つて行くことが大切であると思つ。以上昭和三十年十月参議員農林水産委員会草資源の改良達成並びに利用増進に関する常任委員会に参考人として出席せられた農林省福島畜産牧場長のご意見を編纂部で要約したものであります。